

特別賞

北極の氷がなくなる!!

六本木中学校 中島 薫

今年の夏は、「猛暑日」「熱中症」「熱帯夜」「真夏日更新日」など暑さに関するニュースが毎日のように話題になりました。気象庁が観測を始めた1898年以降の113年間で最高に暑い夏だったらしいのです。本当に暑い夏でした。動物園のホッキョクグマにはちみつかかかった巨大なかき氷をあげたり、氷の塊をプールに入れてあげたり、というイベントが行われたというニュースが目にとまりました。一緒にテレビを見ていたところが、「クマうらやましいなあー、毎日、氷のプールに大きなかき氷だよー」と言いました。

クーラーのきいたおりからできて、冷たい氷がもらえる動物園のホッキョクグマは幸せですが、北極の自然のなかで生きているホッキョクグマには、かき氷のプレゼントはありません。

温暖化によって、ここ100年で世界の平均気温は0.74度上昇していますが、北極圏では2度以上も気温が上がり、氷の厚さも約40パーセントも薄くなり、速いスピードで温暖化が進んでいます。将来の温暖化で、30年以内

に夏の北極海に氷は無くなってしまふ、と予測されています。ホッキョクグマは、氷の上にあいた穴から息つきをするために顔を出すアザラシを捕まえて食べますが、温暖化によって氷が減り、氷の張る時間が短くなると、アザラシが取れなくなってしまう。食料不足で、ホッキョクグマの平均体重がどんどん減っているという報告もあります。冬ごもり前にアザラシが十分に食べられないと、母グマは栄養不足になり、生まれてくる子グマの発育にも悪い影響が出ます。2050年までにホッキョクグマの3分の2が死滅、温暖化の影響で絶滅する恐れがある、とアメリカ政府は、ホッキョクグマを絶滅危惧種に指定しました。地球温暖化の主な原因である自動車、工場、発電所などから排出される二酸化炭素の長い間の世界最大の排出国であるアメリカは、地球温暖化対策に力を入れています。

私もホッキョクグマを救いたいと思います。でも、一人の力ですぐに北極の温暖化を止めるなんて、スケールが大きすぎて、いい方法がすぐには思いつきません。ただ、世界中の人が、地球温暖化に関心を持ち、生活や命が危険な状態にある動物がたくさんいる、ということを知って、自分のできる小さなことでも、毎日少しずつ実行していくことが大切だと思います。車で送り迎えしてもらわないで電車やバス、自転車を使うということも、私にできる二酸化炭素排出量を減らす小さな協力だと思っています。

真っ白で大きくて力強いホッキョクグマが元気にアザラシを追いかけられることのできる厚い氷の張った北極に戻す努力をしたいと思います。